

様式第1号（第4条関係）

令和4年10月21日

病院長選考会議議長 殿

推薦代表者  
病院長選考会議の委員

高橋 尚彦

（自 署）



病院長候補者の推薦について

国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考に関する規程（平成29年規程第47号）第4条の規定により、下記の者を別添病院長候補者推薦書のとおり推薦します。

記

病院長候補者（自署）

三股 浩光



## 病院長候補者推薦書

(ふりがな) 氏名 (年齢)	(みまた ひろみつ) 三股 浩光 (62 歳)
現 職 (又は最終職名)	大分大学医学部附属病院長、教授
<p>推薦理由</p> <p>三股浩光現病院長は、2020 年 4 月に就任されて以降、以下の業務を遂行してきました。</p> <p>まず、新型コロナウイルス感染症に素早く対応し、大分県唯一の特定機能病院として、特に中等症以上の患者を受け入れ、重症患者には ECMO で救命するなどの成果を上げ、宿泊療養施設や臨時医療施設へ多数の職員を派遣し、さらに大阪府や兵庫県、沖縄県へも医療スタッフを派遣しました。ワクチン接種では、且野原キャンパスに本院の医師と看護師を派遣し、大分県内の他大学の職員・学生のワクチン接種を支援しました。当院においては、感染予防策の徹底と積極的な PCR 検査の促進で院内感染を最小限に抑え、高度な医療機能を維持しつつ新型コロナ禍に対応してきました。</p> <p>病院運営に関しては、本年 6 月に当院 2 台目の手術支援ロボット hinotori™を導入し、8 月には「低侵襲手術センター」を開設しました。外科系診療科（消化器外科と呼吸器外科、泌尿器科、産科婦人科、麻酔科）と看護師や臨床工学技士等の多職種が連携して、技能向上と効率的な運用、安全管理、教育などの情報を共有し、人材育成を進めています。</p> <p>その他、病院機能評価で課題となっていたクリニカルパスでは、40%以上の適用率を達成し、2021 年度にはクリニカルパス大会も開催しました。さらに外来機能分化を推進するため、ほぼ全診療科での初診患者の完全予約制や高い逆紹介率を実現させ、文部科学省国立大学法人評価委員会からも注目される点として評価されました。</p> <p>教育に関しては、卒後臨床研修センターにおいてメンター制やベスト指導医賞を制定し、卒後臨床教育体制を強化しました。こうした取り組みの結果、当院のマッチング率は向上し、令和 2 年度は 89.6%、一般枠は最終的に 100%になっています。また多職種連携とタスクシフトを実現するため、2021 年に看護師特定行為統括センターを設置し、本年 10 月に 4 名の修了生が誕生しました。さらに大分県立看護科学大学修士課程の実習生を受け入れ、高度急性期病棟における特定行為に関する補習を実施し、また他の医療機関スタッフに対する ECMO 研修も行い、本院のみならず、大分県下の医療スタッフに対する教育にも取り組んできました。</p> <p>地域医療に関しては、連携医療機関登録制度を創設、500 以上の施設が本院の連携医療機関となり、病診連携セミナーを開催するなど、他施設との病病連携、病診連携にも積極的に取り組まれました。2020 年に広報委員会を新設し、病院内のデジタルサイネージを使った各診療科のビデオ紹介や市民公開講座の開催等、県民に対する啓発活動にも取り組んできました。</p> <p>災害対策に関しては、2020 年の熊本県人吉市豪雨災害では DMAT を派遣し、2021 年 4 月基幹災害拠点病院の指定後に、多数傷病者受入れ訓練に他病院からの見学も受入れています。</p> <p>三股先生は大分医科大学（当時）の一期生として強いリーダーシップを発揮してこられています。優しさと厳しさを兼ね備えた人格で、私を含めた院内の多くのスタッフが三股先生を慕っています。これまでの取り組みをさらに発展させ、当院の未来を切り開いてくださると確信いたしますので、次期病院長候補として最適任と考え推薦申し上げます。</p>	